

1960年8月10日創立

第53代会長 和田幸男
第53代幹事 澤邑重夫



〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町13-29 茅ヶ崎商工会議所3階 TEL: 0467-83-6060 FAX: 0467-83-9915
メール: c3rc@io.ocn.ne.jp 〔例会場〕 〒253-0073 茅ヶ崎市中島1341 コルティール茅ヶ崎 TEL: 0467-87-0002

2013年6月13日(木) 第2582回例会 天候:雨 司会:横山貢副幹事 No. 45

***茅ヶ崎RC会報は当クラブホームページ [http://www.chigasaki-rc.com] からご覧頂けます

≡本日の例会行事≡

- ◇歌唱 「我等の生業」「山男の歌」
- ◇ガバナー補佐退任挨拶 [田中伸宜G補佐]
- ◇会長挨拶
- ◇幹事報告
- ◇卓話 「イニシエーションスピーチ」 小林八重子君・大箭剛久君・大木暁君

◎ゲスト・ビジター紹介

田中伸宜様(ガバナー補佐・綾瀬RC) 堀口昌信様(茅ヶ崎中央RC) 井上晴見様(ベイフロント横浜RAC)

◎幹事報告

◇ガバナー事務所より

*2013-14年度地区直轄グローバルグラントプロジェクト「識字を通じラダック女性に豊かな人生を」

地区実行委員会委員の募集 ・募集人数…10名
・委員会の仕事…主にメールで進行状況をシェアし、報告・会計監査などの書類を複数名でチェックする。

*米山学友会主催「グリーンキャンペーン」の通知

・7/6(土) 11:00 集合 ・集合場所…小田急線「片瀬江ノ島駅」 ・会費:3,000円

◇神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所より 平成25年度薬物乱用防止講習会について(通知)

・8/27(火) 14:00～16:00 ・神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所 講堂

◇ガバナー月信 No.12 ◇タウンニュース

◎会報 着 綾瀬

◎委員会報告

会長エレクト[出口会員]:6月10日規定審議会報告

会報[河本会員]:次年度会員名簿作成に伴い、写真提出または新規撮影のお願い

卓話「イニシエーションスピーチ」

小林八重子君 [2013年4月25日入会 (株)長生運輸]

実家は奄美大島でハブセンターを経営しておりまして、それが私の商売の原点になっています。その頃はハブは猛毒で害を与えるということもあって、市を挙げて補助金も出まして、毒を採って血清などを作るといった作業をしていました。当時は新婚さんがたくさん奄美に来て、タクシーの運転手さんの中には、そうした新婚さんを飛行場からハブ対マングースのショーに連れてくる途中で、ハブを生け捕りにするような名人もいました。生きたものと1匹7千円から1万円くらいで売れましたから、サイドビジネスでやっている人もたくさんいました。名人になりますと、月に30万～35万円くらいの収入になって、サイドビジネスとは言えないほど稼ぐ人も、今もいます。

港近くのうちのハブセンターは4階建てで、1階では買い上げたハブを解体していました。なめした皮でベルト、ハンドバッグなどを作り、中身は姿煮にしたり、焼いて粉にしたり、本当に捨てる場所がありません。時々「ハブに噛まれて大変ではないですか？」と聞かれることがありますが、私の知る限りでは噛まれて死んだ人はいません。夜行性であることや、ソテツの木に隠れているといった習性を知っていれば、それほど怖いものではありません。

会社の名前は先代の社長が千葉の長生町の生まれで、そこからネーミングしました。今は地域に密着して、学校の楽器運搬、お神輿の搬出搬入などをやっています。その原点はやはり奄美のハブセンターで「来る者拒まず、千客万来」。いつも店にはお客さんがいて、それを大事にしていたのが私の大好きな母でした。それを体で覚えてきました。3人の息子にもこういった話をしてみるのですが、「また同じこと言って。オバタリアン」と言われたこともありましたが、息子には「これからは私はオバタリアンではなくロータリアンだよ」と言っています。

へび年の今年、縁あってロータリークラブに入ったこともそうですし、ラスカのかじ引きで38,000人の中から1等賞、ウィーン旅行が当たりました。いろいろと運氣が上がっているのかとも思いますし、仕事でも懸けていることもあります。これからもよろしくお願い致します。



出口会長エレクト、田中ガバナー補佐、卓話の小林八重子会員

日時	回	現会員	計算会員	出席	MU済	欠席	暫定出席率	修正出席率
6/13	2582	40	34+6	36	2	2	95.00%	
5/30	2580	40	34+3	30	1+2	4	83.78%	89.19%

大箭剛久君 [2013年5月9日入会 (株)丸越]

祖父・大箭与平治が十間坂で開業して以来、今年で90周年となりました。これもひとえにご支援頂いた皆様のお陰であると、心より感謝申し上げます。祖父は新潟で鍛冶屋で丁稚奉公をしていた関係もあり、開業した時には大工道具や家庭用金物を中心に扱っておりました。第二次大戦後の復興期に父が建築金物を中心に扱って業績を伸ばし、建築ラッシュが一巡した頃からは工場向けの機械工具を取り扱うようになり、現在に至ります。十間坂で開業後、一時は共恵に店を構えていた時期もありましたが、昭和45年に現在の南湖に現本社屋を作りました。

私は昭和39年に大箭家の長男として生まれました。年子の弟と二人兄弟です。高校時代に友人に薦められ、山本周五郎の修道小説集というものを読みまして、大きな感銘を受けました。彼の終生のテーマである『無償の奉仕』はそのままロータリーの精神に相通じるものがあると思います。彼の作品を通じて、人の心の美しさ、それを信じることの大切さといったことを学んできたと思います。青春時代に山本作品と出会えたのは大きな財産となりましたし、その後の人生に大きな影響を与えたとも思います。大学では体育会のアーチェリー部に入りました。アーチェリーは大学から始める人も多く、頑張り次第でレギュラーにもなれるからです。当時はライバル校だった日本体育大学にアテネオリンピックの銀メダリスト、「中年の星」と言われた山本博くんがおりまして、リーグ戦では優勝争いをしつつも、いつもやられていました。お陰様で4年生の時はリーグ戦にフル出場、個人戦ではインカレに出場と幸せな選手生活を送りました。ひ弱だった私が鍛えられた原点であったと思います。

卒業後、某大手メーカーのM社に入社致しました。当初、父は弟に家業を継がせるつもりで、私は自由に自分の道を行けばよいと考えていてくれました。半導体事業部に配属になって、関西の工場ですら5年半ほど勤務致しました。当時の半導体業界は飛ぶ鳥を落とす勢いがあり、フル稼働状態が続いていましたが、仕事には充実感があり、関西での独り暮らしを満喫していました。その頃、丸越で営業部長をしていた叔父が病に倒れ、1年を待たずに癌で亡くなりました。また、弟も父が思い描いていた道とは違う方向に歩むようになっており、父から「丸越に帰ってきて欲しい」と言われるようになりました。半導体業界の先行きは暗いものではなかっただけに、かなり迷いましたが、最終的に父の願いを叶えてあげることが人として正しい道だと考え、丸越に帰る決心をしました。現在の半導体業界の不況を見るにつけ、人間どこで何が幸いするかわからないなあと思います。やはり自分が正しいと思った道を進んでゆくしかないのだと思います。

私が戻る少し前から、丸越では海外部門を設立してしまっていて、自分がそれを担当することになりました。当時は英語も片言しか話せませんでしたし、それまでとは取り扱う商品も違いましたから、あらゆる事が手探りの状態でした。それでもお客様やスタッフの支援で、何とか売上を伸ばし、1997年にはお客様からの要望もあって、私が責任者となってシンガポールに現地法人を作りました。1998年にはアジア通貨危機もあって、売上が半減しました。翌年からは景気も回復して、3年半の任期が終える頃にはどうにか元の売上に戻すことが出来ました。2000年に帰国して専務取締役役に、2006年に代表取締役役に就任致しました。近年では工場相手の商売は、国内売上の減少を輸出でカバーするという状態が続いています。私どもの会社はこれまでも、時代の変化に合わせて対応を変えてきたと考えていますので、これからも時代に合わせて社会に貢献できる会社を目指して参りたいと思いますので、是非よろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございました。



大木 暁君 [2013年5月9日入会 横浜銀行]

昭和39年、伊勢原で生まれました。誕生日は奇しくも親父と同じ11月19日です。父は昭和7年生れです。昭和39年と言いますと、東海道新幹線の開業、東京オリンピックの開催といった出来事がありまして、日本の発展が目覚ましい時代で、その象徴の年であったように思われます。生まれた時には産声をあげず、仮死状態に近い状態で生まれたようです。幼稚園に上がってからも、喘息アレルギーのようなものがあって、1ヶ月まるまる休んでしまうようなこともあり、小学校への入学を遅らせようかと心配したとのこと。小学校に上がってからは嘘のように体が丈夫になりました。小学生時代は野球に熱中しましたが、それほど実力がなかったため、憧れの背番号である巨人軍の王の1番や長嶋の3番はもらえず、V9メンバーの高田の背番号8をつけていました。中学時代はバスケットボールに熱中しましたが、やはり背番号は8で、何か縁があるなあと思っています。高校は地元の平塚江南に進みました。勉強では中途半端な落ちこぼれで、浪人しました。浪人する際に、予備校の選抜試験があったのですが、私はその試験にも落ちまして、さすがにショックでした。そうこうしてやっと入った大学でしたが、4年間ほとんど勉強もせず、遊びとバイトに明け暮れていました。ガラス工場、精肉加工工場、コンビニ、選挙の手伝い、家庭教師や塾の講師などをやりまして、月に10万円以上は稼いでいました。今では、あの当時が可処分所得が一番高かったのかなあとも思います。

就職活動は大学4年の5月から始まりまして、8月にピークを迎えるような感じでした。8月下旬のある日、安田火災・大正海上・富士銀行・横浜銀行の4社の面接が集中しました。うまいこと時間がばらけたので、4社とも受けられると思っていたのですが、3番目の富士銀行の面接がなかなか始まらず、30歳くらいの方に「早く始めて頂けませんか」とお願いしたところ、「次にどこに行くのか？」尋ねられ、「横浜銀行です」と答えると、「うちと横浜銀行では格が違うよ」と言われ、そこでちょっとカチンときました。その場で富士銀行をお断りして横浜銀行を受けに行きました。そんな縁もありまして、昭和63年4月、横浜銀行に入行致しました。入行してから小田原支店を皮切りに、茅ヶ崎支店まで9つの部署を経験していますが、一番思い出深いのは、平成8年～11年に在籍していました融資関連部というセクションです。ここはバブル後の不良債権の処理をやっている部署で、いくら仕事をやっても終わらないという感じで、終電で帰ることや土日出勤がザラでした。当時は山一証券、拓殖銀行、日債銀、長銀といった名門企業が相次いで破綻するといった時代でしたが、実は横浜銀行も株価が落ちまして、心配もされました。平成10年のことですが、この年、プロ野球では横浜ベイスターズが優勝、松坂大輔の率いる横浜高校が春夏連覇したり、関東学院大学がラグビーで優勝、神奈川大学が箱根駅伝で優勝したりと、いわゆる「横浜イヤー」でした。横浜銀行だけは体たらくでしたが、ベイスターズが優勝したことで、「ベイスターズ定期」というのを出して、これで資金が集まって資金繰りがついて、横浜銀行が生き延びたということがありました。

直近は名古屋支店にいました。ホームグラウンドではないので、いろいろと苦勞もありましたが、大変勉強になりました。ただ、一つ残念だったのは、父の死に目に会えなかったことです。今年の3月6日の夜だったのですが、弟から電話があり、父がお風呂場で意識を失って危ない知らされました。さすがに名古屋からですと、すぐに駆けつけることが出来ず、会えたのは夜中でした。茅ヶ崎支店は横浜銀行の職員なら一度は働いてみたいという支店です。せっかく与えて頂いたチャンスですので、目一杯頑張ってやってゆきたいと思っておりますので、皆さん、是非よろしくお願い致します。

